

冬ノ八裏

讀へよみへけん思ひ出て

風になびくふじの煙へけふりの空に消て

行衛もしらぬわがおもひかな

武蔵野へむさしのの夜のけしきおぼつかなくて

萩へはぎのにしきに立へたちよりて草へくさの原へはらはるか

に立のぼる月影へかげをながむればひるより

もけにすみわたりてきはめなきな

がめの末へすなりをちの野ばらの鹿へしかの音へね

は誰へたかつまこめになきあかしよもぎがもと